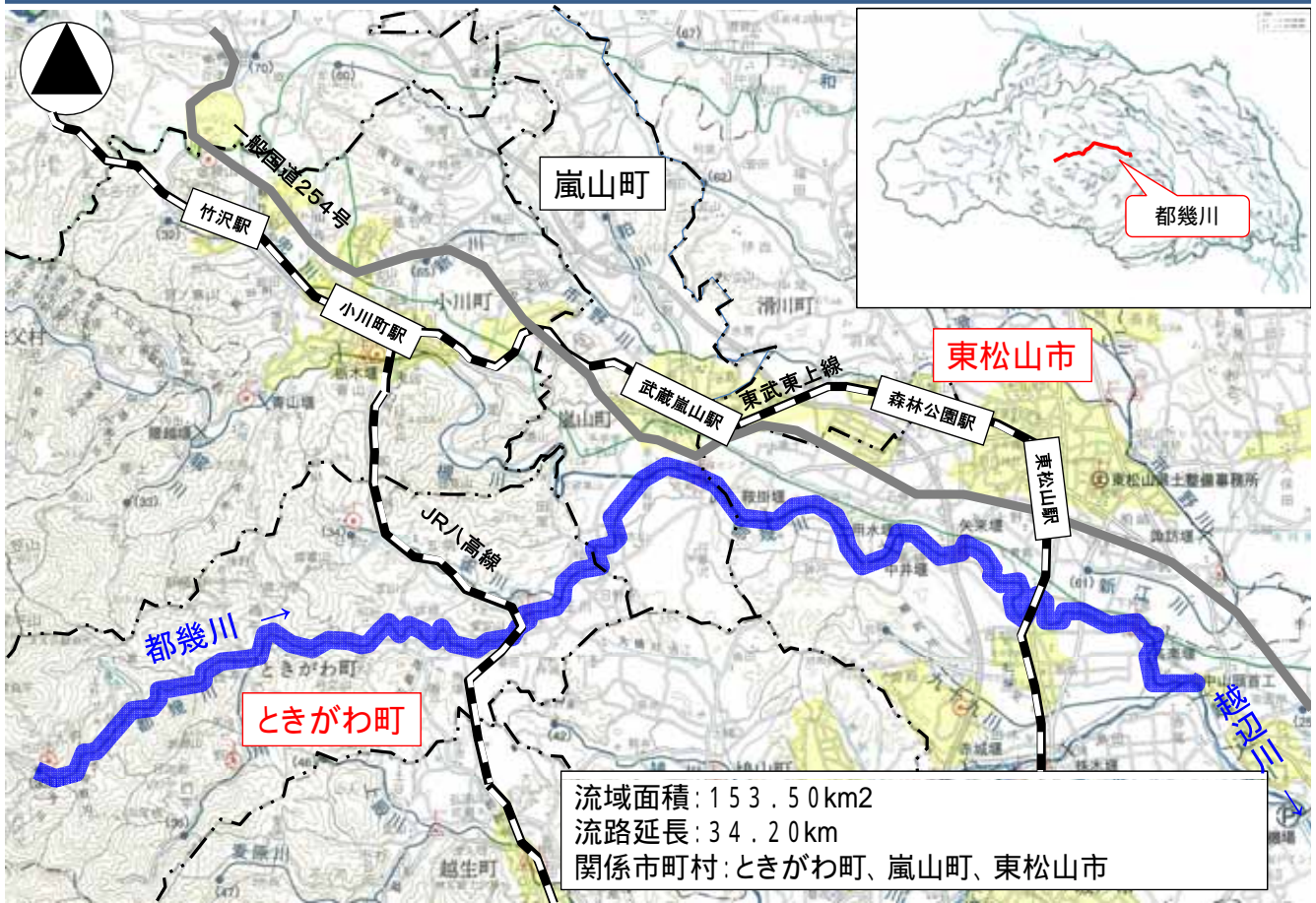


都幾川の概要



ときがわ町

安らぎとにぎわいの空間を創出するため、町の骨格を流れる都幾川に遊歩道を整備し、点在する景勝地を線で結びつけることで、上流部のポテンシャルである清流を生かし、より多くの観光客が訪れるよう、川の整備と町の整備の連携を図ります。また、この取組により、相乗効果による産業振興を推進します。

市町村域とまちづくり・川の関係 (案内図)



まちづくり等の課題

自然に恵まれ、見所スポットは多いが、近づくことすらできないポイントが存在し、自然環境が十分に活用できていなかった。
公共交通機関に乏しく、集客キャパが少ないうえに町全体の観光意識が薄いため、目玉事業が発掘できていなかった。

目標・テーマ

町の資源は自然と歴史。埋もれた観光資源を発掘し、活気あるまちを目指す。
点在する川辺のスポットを点から線に結びつけ地域と一体化したまちにする。
川を活かした観光コースを発掘する。

県に実施してほしい取組

ときがわ町では、都幾川に清流と渓谷が織り成す見事な景観が点在するが、結びつけるルートがなく、一旦川から離れて移動しています。そこで、都幾川沿いに遊歩道や親水施設を整備することにより、普段、見ることの出来ない景勝地を生かして、川を訪れる観光客を街中に誘導し、町全体の地域振興を図ることができます。

位置図



実施してほしい取組の概要

水辺再生事業を実施した上下流に点在する景勝地を、点から線へ結ぶ遊歩道の整備(三波溪谷～嵐山町行政境)
自然環境に溶けこむ親水護岸及びハイカーやサイクリストが休む休憩施設の整備

工程表

	H24	H25	H26	H27
遊歩道整備		2km	2km	2km
親水施設整備			2箇所	

市町村が取り組む事業等の概要(田中・別所地区)

様式 - 4

三波溪谷周辺は、手付かずの自然が残り、やすらぎと癒しの空間として注目を浴びている地域です。ここでは、唯一無二の自然環境と歴史をバックボーンに、町で整備した四季彩館の運営を民間に任せ、周辺施設として散策路や広場は、地元のNPO団体である「三波溪谷保存会」を中心に、官民一体となって整備を進めています。【三波溪谷周辺整備事業】

位置図

【三波溪谷周辺整備事業】



三波溪谷の現況



三波溪谷周辺の整備イメージ

事業等の概要

CASIOや伊藤園のCMロケ地である三波溪谷の美しい自然を広く知ってもらうため、今年度、検討委員会を立ち上げ、広報活動や案内看板等を整備します。
三波溪谷の辺りに建築された四季彩館との連携を図るため、対岸にビジターセンター、駐車場及び人道橋を整備します。

工程表

	H24	H25	H26	H27
ビジターセンター			開設	
人道橋			整備	

市町村が取り組む事業等の概要(玉川地区)

様式 - 4

玉川バイパスと都幾川が交差し、その立地の良さから、公設民営の直売所や住民が育てた花菖蒲園など、活気あるまちづくりを展開している地区です。通過車両にも町の良さをPRできる数少ないポイントであることから、地域パワーをテコに、合併特例債や県費補助事業を活用し、拠点施設の整備を行なっています。【ふれあいの里たまがわ周辺整備事業】

位置図

【ふれあいの里たまがわ周辺整備事業】



花菖蒲園のにぎわい状況



人道橋の整備イメージ

事業等の概要

水辺再生事業で整備されたフィールドを活かし、相互乗入による効果を図るため、ふれあいの里(直売所)から川に導く散策路や、川の広場周辺に人道橋と駐車場を整備します。
地元有志である「花菖蒲を育てる会」が、町と協働で作上げた菖蒲園周辺に美術館を整備します。

工程表

	H24	H25	H26	H27
散策路・人道橋・駐車場整備	H23年度整備			
美術館整備	開館			

市町村が取組む事業等の概要 (和田地区)

様式 - 4

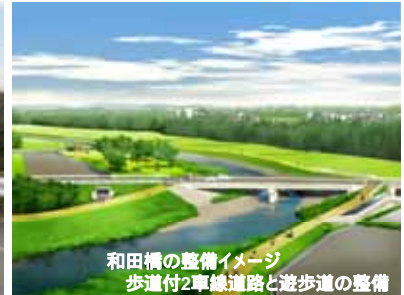
平成20年度から合併特例債を活用し、道路整備を行っており、第一次水辺再生事業の下流に当たる地区です。このエリアでは、長閑な田園風景が望め、地元地区からも遊歩道の延伸希望があることから、河川管理者と協議し、橋梁整備と遊歩道整備を平行して進めております。
【和田橋周辺整備事業】

位置図

【和田橋周辺整備事業】



和田橋の現況
対面通行不可



和田橋の整備イメージ
歩道付2車線道路と遊歩道の整備

事業等の概要

現在、片側交互通行である和田橋を、自然と調和した歩道付きの橋梁に整備します。

和田橋に接続する和田橋通りを拡幅整備します。

工程表

	H24	H25	H26	H27
橋梁整備	用地買収	橋梁整備		
町道拡幅整備	拡幅整備			

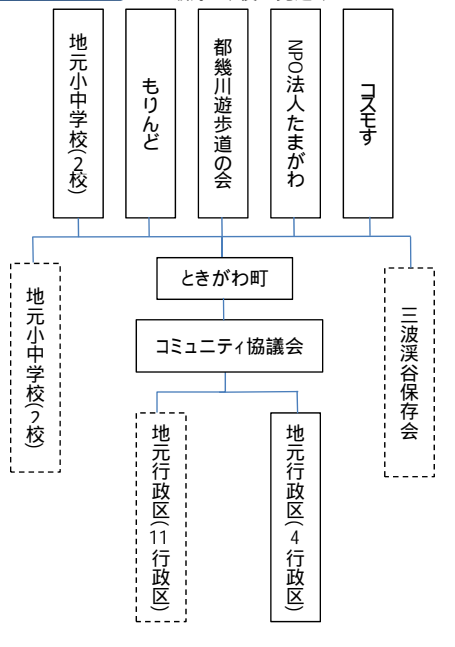
地域連携・維持管理等の概要

様式 - 5

遊歩道計画は、河川管理者と町、そして、地域住民の代表である区長と地元NPO団体が計画段階からタッグを組み検討します。また、河川美化活動等維持管理は地元の行政区や地元NPOが行い、地域の絆を深める事業として育成し、整備後も継続して活動できる環境を整えます。

体制図

実線 既存体制
破線 今後の見込み



地域連携の概要

遊歩道計画は、行政と地元住民の代表及び川の事をよく知るサポーターやアドバイザーと広く意見交換して検討します。町では、地域のために活動している住民を支援していきます。河川の美化活動には、地元行政区及び川に隣接する小・中学生に参加を求めます。なお、第一次水辺再生事業では、行政区や小・中学校も水辺のサポーター制度に登録します。

取組全体のアピールポイント

ときがわ町では、河川を活かした観光コース・資源の開発を行なっています。

町の骨格を流れ、町名の由来でもある都幾川に遊歩道を設け、埋もれた地域資源を活かす本取組みは、入込客数100万人を目標に掲げる町の活性化に結びつく、最も有効な事業だと感じております。

将来的には、上流の大野地区まで、都幾川を遊歩道でつなげたいと考えています。

東松山市

川沿いウォーキングと親水レジャーによるまちづくり

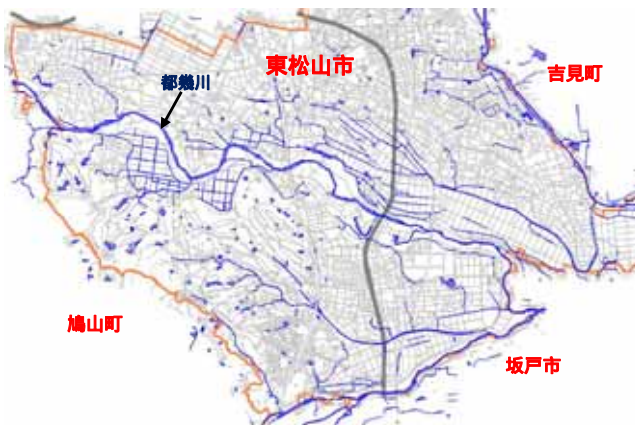
様式 - 2

埼玉県ほぼ中央にあたる東松山市は、武蔵野の豊かな自然に恵まれ、特に都幾川は広い河原や個性豊かな橋を有することから、市民の憩いの場として親しまれてきた。

また、本市では日本最大のウォーキングの祭典である「日本スリーデーマーチ」が毎年開催されており、都幾川周辺一帯の自然は、世界中から集まる多くのウォーカーの心を捉えている。新たな「川の再生」では、川にしみながらウォーキングを満喫できる空間、「橋」を中心とした魅力的なレジャー空間を創造し、多くの市民・観光客の呼び込みを推進する。

市町村域とまちづくり・川の関係(案内図)

まちづくり等の課題



鞍掛橋一帯は広い河原・清流に恵まれ、近隣に文化施設を有することから、都心から1時間以内で訪れることができる観光スポットとして認知されることが期待されるが、知名度が高いとはいえ、さらなる魅力アップ・情報発信が必要である。

東松山市～嵐山町～ときがわ町を都幾川沿いに移動できれば、複数の自治体が有する自然や観光施設を満喫することができるが、現状では川沿いに散策することができず、線的な整備が望まれる。

目標・テーマ

都幾川の上流(ときがわ町)から下流(東松山市)まで、川沿いを散策できるルートを構築することで、ウォーキングを楽しむ方、周辺の施設へ訪れる客を増やし、川を中心とした賑いを創出する。

魅力ある景観・広い河原に恵まれた鞍掛橋周辺を観光スポットとして整備・情報発信し、観光客を増やす。

都幾川の「上流」から「下流」までをつなぐ散策路の舗装整備により、東松山～嵐山町～ときがわ町と複数の市町を川沿いに散策できるようにしていただきたい。

また、鞍掛橋の周辺については、川岸の魅力を向上させるための植栽工・階段設置やテーブル・スツール等の設置により、都心からの観光客が呼び込めるような魅力的な水辺空間を創出していきたい。

こうした取組みにより、観光レジャー拠点としての賑わい創出・多様な目的でウォーキングを楽しむ人たちの増加・周辺文化施設へ訪れる観光客の増加等が期待されます。

位置図



現状



整備後イメージ



実施してほしい取組の概要

点在する親水空間をつなぐ遊歩道の舗装整備
川岸の魅力を向上させるための植栽工・階段設置工およびテーブル・スツール等の設置

工程表

	H24	H25	H26	H27
地元住民・市民団体・県・市によるワーキングチームの設置				
歩道整備・植栽工・階段設置		調査・設計	工事	工事

市町村が取組む事業等の概要

市では、平成23年度から鞍掛橋周辺がレジャー拠点となるよう整備を進めています。平成23年度には除草や整地、駐車場の整備により魅力アップを図りますが、水辺空間のより一層の充実を図るため、地域住民と連携しながら、周辺用地の確保や案内板の設置、市民団体の活動支援等を実施してまいります。

位置図



イメージ図



工程表

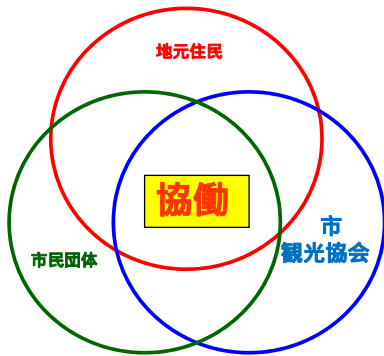
	H24	H25	H26	H27
地域住民・市民団体の活動支援				
用地の取得 周辺環境整備	用地取得	環境整備	環境整備	

事業等の概要

車で訪れたレジャー客に対応するための駐車場や広場等を鞍掛橋周辺に整備します。
周辺の文化施設(丸木美術館)等へ案内板を設置し観光客を誘導します。
都幾川を利用して行われる地域住民・市民団体のイベント・ワークショップの支援を行い、地域の触れ合いの場・憩いの場としての定着を図ります。

都幾川沿い散策道および鞍掛橋周辺の整備個所の維持管理計画については、地域住民・市民団体・市が協働して検討を進めます。また、地域住民・市民団体によるカヌー体験や川遊び等のイベントについても、市がサポートを行います。

体制図



地域連携の概要

維持管理計画は、地域の関係者間で広く意見交換して検討します。

原則として、地域住民、各種団体、市・観光協会の協働により、整備個所の維持管理を行います。

地域の特性を踏まえた水辺整備と市民の自主管理、利用推進の体制づくりを研究します。

効果的な広報によって地域へ訪れる人を増やし、賑わいを創出します。

取組全体のアピールポイント

日本スリーデーマーチのほか、比企圏域全体を視野に入れた常設のウォーキングの検討を進めており、整備された散策道の確実な有効活用が見込まれる。

上流から下流までの線的な整備は、複数の市町による協働活動の素地と見込まれる。

鞍掛橋周辺を中心に、都幾川では以前より市民団体を中心とした公共活動が展開されており、「川の再生」によって、住民による公共活動の一層の推進が期待される。地域が内包していた川の魅力を、「川の再生」により存分に内外へアピールすることができ、新たな観光客の呼び込みにつながる。